

# 金沢市営造林運用計画(骨子案)

## 1 計画の概要

### (1) 計画策定の趣旨

- 金沢市営造林事業は、木材供給、治山治水、就業の場の確保を目的とし、昭和40年に開始しましたが、平成15年の植林を最後に、45年を伐期とする施業から、大径材の生産を目的とする80年の「**長伐期施業**」に転換してきました。
- 一方、近年ではSDGsの1つに「持続可能な森林の経営」が掲げられ、「伐って、使って、植えて、育てる」人工林のサイクルが、二酸化炭素の吸収や国土を災害から守るといった森林の持つ機能が発揮されることから、**施業の方針を「主伐・再造林」に転換**していくこととします。
- 人工林の循環利用を推進しながら、多様で健全な森林へと誘導する持続可能な森林経営を目指し、今後40年の指針となる「金沢市営造林運用計画」を策定するものです。

### (2) 計画期間

- 令和6年度から令和45年度までの40年間  
(市町村森林整備計画を見直す5年毎に計画を見直し)

## 2 森林・林業を取り巻く環境の変化

### (1) 森林管理のあり方

- **森林経営管理制度の開始(平成31年)**  
手入れの行き届いていない森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託するとともに、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理をする制度が創設
- **森林環境譲与税の譲与(令和元年～)・森林環境税の徴収開始(令和6年)**  
温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保するため森林環境譲与税が創設

### (2) 輸入材から国産材への転換

- **木材自給率の回復**
  - ・平成14年に18.8%だった木材の自給率は、令和4年には40.7%までに回復
  - ・新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻などの社会情勢の影響を受け、国産材の安定供給が課題

### (3) 山地災害の激甚化

- **近年の山地災害の特徴**
  - ・線状降水帯の発生による災害の同時多発化
  - ・やや深い層からの崩壊の発生
  - ・流木災害の激甚化

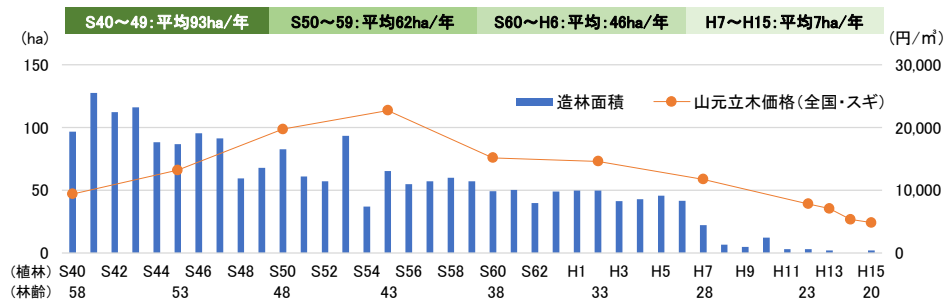


令和4年8月の災害  
(左)熊走町地内の市営造林  
(右)熊走町地内の被災した人家

## 3 市営造林の現況と課題

### (1) 林齢構成

- 造林面積の約6割は、標準的な伐期の45年を経過し伐採適齢期を迎えています。
- 林齢構成に偏りがあるので、平準化による持続可能な木材生産体制の構築が課題です。



### (2) 森林情報の把握

- 市営造林は、市内森林約22,000haの中に契約団地834団地・約2,000haが点在し、調査には多大な人員や時間が必要となることから、航空レーザ計測により森林情報を解析し、その解析結果を計画の策定に活用しました。

## 4 基本方針

### (1) 収益性と災害リスクに着目したゾーニング

- 林業の収益性と災害リスクに着目し、林業経営に適した森林又は適さない森林を区分し、それぞれの管理方針を定めていきます。

### (2) 林業経営に適した森林の主伐・再造林の推進

- 林業経営に適した森林から優先に主伐・再造林を進めていきます。
- 主伐は、森林所有者の意向を確認しながら、立木の売払いによって進めることとし、伐採跡地は将来の木材供給と防災の観点から、再造林率100%を目指していきます。

### (3) 主伐後の森林の集積・集約化

- 売払いにより、市と森林所有者との市営造林契約(分収林契約)は解除します。
- 主伐後の管理は、意欲と能力のある林業経営体等に集約し、国補助金等を活用しながら、確実な再造林と施業コストの低減を図っていきます。

### (4) 林業経営に適さない森林を針広混交林に誘導

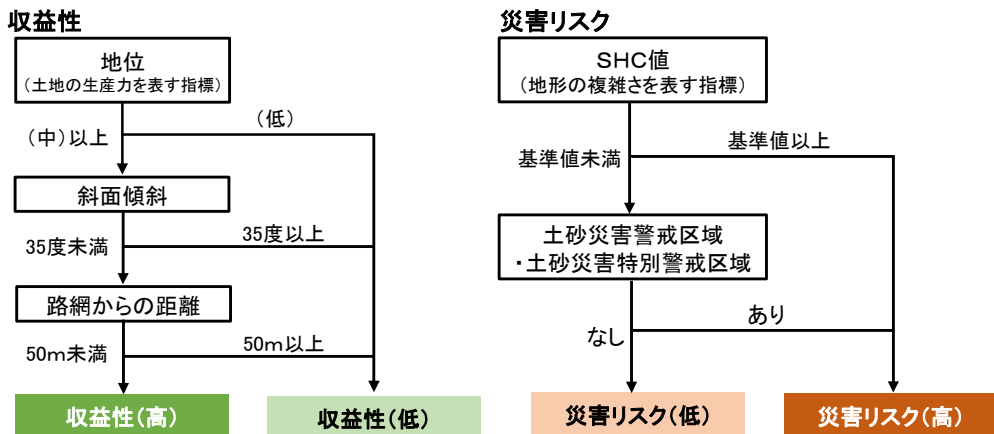
- 立地条件や防災上、林業経営に適さない森林は、森林経営管理制度を活用し、市が針葉樹と広葉樹が混ざり合う森林に誘導し、森林の有する公益的機能を維持・増進させていきます。

# 金沢市営造林運用計画(骨子案)

## 5 森林のゾーニング

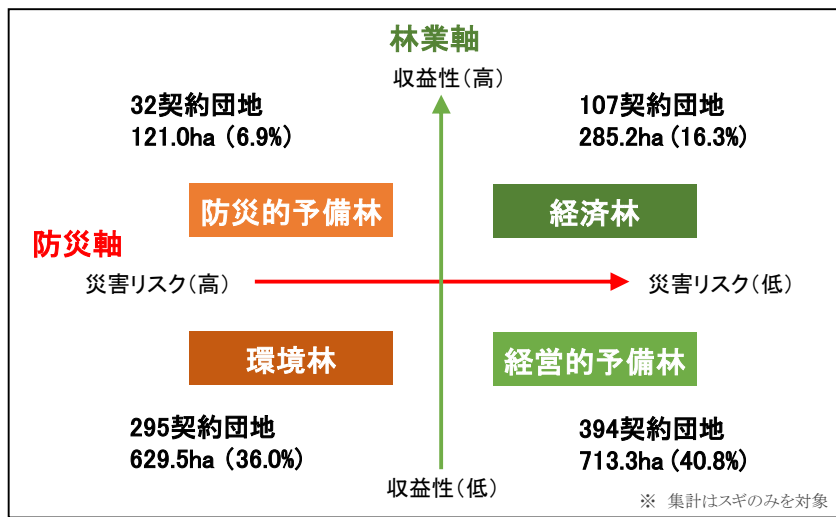
### (1) ゾーニングの基準

● 契約団地毎に、収益性及び災害リスクを次のフローにより判定していきます。

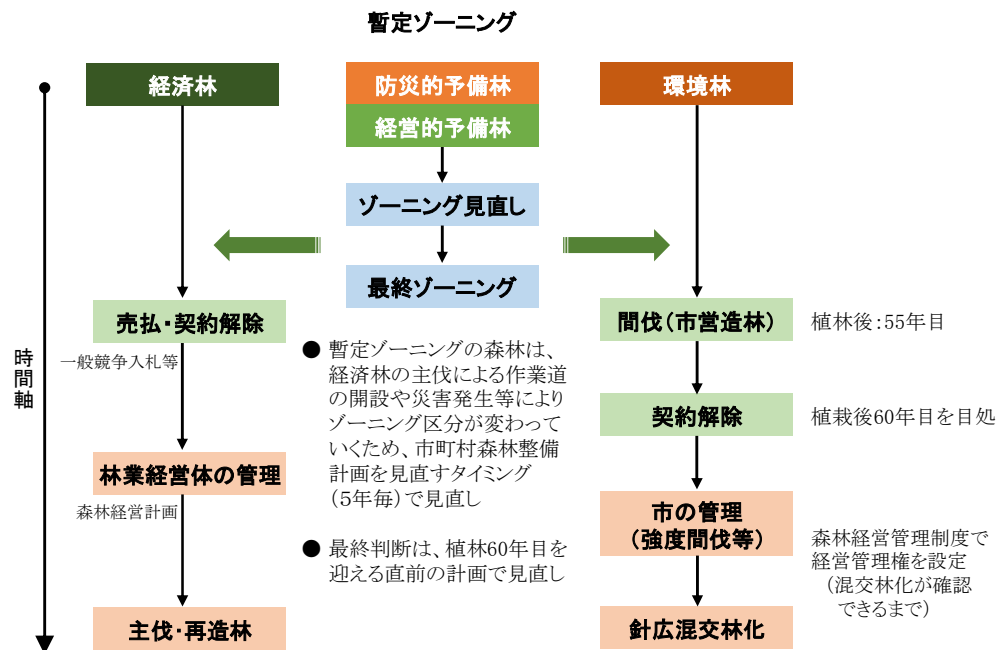


- **地位**
  - ・土地の生産力(肥沃さ)を表す指標。同じ林齢でも、肥沃な土地では樹高が高く、痩せた土地では樹高が低くなることから、樹高を基に土地の生産力(肥沃さ)を区分したものと
- **SHC値**
  - ・標高、傾斜、平面曲率から地形の複雑さを定量化した指標。同じ傾斜でも、谷が多く入り組んだ地形(凹地形)では崩壊が発生しやすく、SHC値が高くなる特徴があり、他都市もゾーニングに活用している。
  - ・解析の結果、市営造林のSHC値は、0(崩壊しにくい)～14.83(崩壊しやすい)となり、谷や尾根の地形との重なりを検証し、判定の基準値を5.9に設定。今後も基準値が適切か検証を行っていく。

### (2) ゾーニング結果



## 6 ゾーニング別の管理フロー



## 7 売払いによる主伐スケジュール

- 経済林を優先し、①契約年次の古い順、②森林所有者が特定できる順に売払いを行います。
- **経済林及び経営的予備林**の売払いの面積や時期は次のスケジュールを目安としていきます。

主伐時期	R6~	R11~	R16~	R21~	R26~	R31~	R36~	R41~45	計
主伐面積(ha)	30	70	150	150	150	150	150	150	1,000
主伐面積(1年あたり)	6	14	30	30	30	30	30	30	
対象団地(植林年次)	S40	S41	S41~S44	S44~S47	S47~S52	S52~S57	S57~S62	S62~H15	
主伐時の林齢	58~62	62~66	67~68	69~70	70~72	70~71	70~71	60~71	